

活気ある消防団を目指して ～消防団員条例定数達成における 組織一丸となった取組～



静岡県 焼津市消防団
団長 岩本 操

1 はじめに

焼津市消防団は、平成20年11月に焼津市と大井川町の合併により、長い歴史と伝統とともに守りつつ更なる飛躍を誓って、消防団も一つに統合されました。

しかし、当消防団も近年の社会情勢の変化等により団員数減少に拍車がかかり、被雇用者団員の増加により昼間における消防力の低下、更には団員の高齢化が進み、団員確保に苦慮していました。

そこで消防団本部員（団長、副団長、方面隊長・副隊長）12名が中心となり、これらの課題を解決すべく打開策を提案し、多岐にわたり活動を実施しました。

2 取組の内容

(1) 機能別消防隊の発足

平成31年4月に消防団員のOBで構成された「支援団員」が発足しました。また、令和2年以降現在までに地元水産企業で構成される組合や一般企業など3団体が「事業所団員」として加わりました。更に市役所に勤務する職員で構成する「市役所団員」も加わりました。



辞令交付式

(2) 全国初の女性消防団員ドローンパイロット

近年、防災分野で注目を浴びるドローンをいち早く消防団に導入し「ドローン隊」を令和元年に発足しました。このドローン隊は、



ドローン隊



ドローン空撮

災害発生時の迅速で確実な情報収集が主な役割となり全国初となる女性消防団員ドローンパイロット4名も活動しています。メンバー募集の時点ではドローンの操縦経験が無かった団員が多かったですが、新たな任務への挑戦意欲を持って入隊した隊員ばかりで、男女隔てなく協力しあう団結力の強さが魅力です。

さらに、日本初となるドローンの使用に特化した消防団指揮車を令和3年2月に配備し、ドローンの活用を幅広いものとなりました。

(3) 社会環境に合わせた消防資機材の導入

ハード面では、40mmホースおよびガンタイプノズルを全分団へ配備しました。近年の建築物構造や製品・技術の発展など、社会環境

の変化とともに火災の燃焼挙動も多様化しており、その変化に応じた消火戦術を展開しています。

(4) 消防団員が自ら造り上げた訓練

平常時は大工を職業としている消防団員が数名いるため、その団員が中心となり木造模擬家屋を作成、それを使用し燃焼実験や火災性状を理解する訓練を行いました。

(5) 女性消防隊の活発な活動

広報が主な活動であった女性消防隊が、新たに取組んだのは花火教室です。今までは常備消防が市内の幼稚園、保育園に出向き花火の実施方法や防火思想の高揚を図ってきましたが、「是非一緒に行きたい。」という女性消防隊からの要望により実施に至りました。

また、以前から行っていた救命講習も市民からの要請に加え、消防団側からも積極的に開催を促すなどより一層力を入れました。



火災戦術訓練



花火教室

3 取組の成果

地域に根付いた事業所等が機能別消防隊になったことで、消防団員の増員となったことはもちろん、その地域の防災力強化に繋がりました。逆に事業所等は地域貢献という形で焼津市に還元することができ、お互いにメリットを受けることへ繋がりました。

市役所団員については市役所職員が率先し

て消防団員になることで、防災意識の高揚を直接市民へアピールすることができました。

市内に勤務する異なる職種の方々が、地域の安心・安全な町づくりという目標に向かって消防団活動を行うことで組織全体が一体になることができたことは他に代え難い財産となりました。

消防団によるドローン隊の活動は、全国的にみても珍しく画期的であるため、各メディアや広報誌等に掲載されることで市民の目に留まり認知されるようになりました。ゆえに、消防団活動に興味を持った方の入団に拍車がかかったように感じます。

また、40mmホースおよびガンタイプノズルを導入するにあたり、常備消防を講師に招き火災性状を一から学ぶことから始め、導入目的と使用方法を理解してより質の高い現場活動を行うことが可能となりました。さらに、経験の浅い団員とベテラン団員が一致団結し取り組むことで、強固な組織体制を築くことができました。

さらには消防団員が自ら作成した模擬家屋を使った燃焼訓練では、今までのような与えられた訓練ではなく自分達で企画し実施することで、充実感とより深い理解度を得ることができました。

以前まで女性消防隊は広報活動が主な活動であり、あまり表に出ることがありませんでした。しかし、花火教室や救命講習など積極的に外に出て市民と一緒に活動することでそれ自体が広報活動に結びついたのでした。

4 おわりに

これらの組織一丸となった消防団活動は市民の皆様のご理解ご協力、そして団員とその家族により日々活気づいているのです。その結果として、当消防団の団員数は令和3年7月1日に組織全体の悲願であった消防団条例定数の528名に達することができました。引き続き、市民の安心・安全を守るべく、地域防災力の中核的な組織として邁進してまいります。